

「日本消滅」 大松右京

201x年、2011年3月11日に起きた東日本大震災とその津波によって引き起こされた福島原発のメルトダウンは人々の記憶の中で風化し始めていたが、福島原発では先の見えない廃炉作業が牛歩の如く進行していた。

原発再稼働に反対するデモは、当初、参加者の多くが中高齢者だった為、年々減少し、最近ほとんど見られなくなっていた。

それに呼応するかのように、政府は一基、また一基と、川内、大飯、高浜、浜岡と原発を再稼働させていった。電気料金は下がり、消費者は「見かけの安い電気」を使い、「原発神話」が復活し始めた。

202x年、警鐘され続けていた「南海トラフ大地震」が起き、巨大な津波が太平洋沿岸を襲い、浜岡原発を飲み込んだ。津波対策の防潮堤は脆くも崩れ去り、原子炉が破壊され、「死の灰」が東海、関東、東北の一部まで降り注いだ。数千万人が避難を余儀なくされ、日本の中枢機能が死んだ。

203x年、「南海トラフ」地震に触発され、霧島山が大噴火。火砕流が川内原発を襲い、電源消失、原発が暴走を始めたが、降り注ぐ火山灰の為に原発に近づく事が出来ず、ついに爆発、メルトダウン。

「死の灰」は遠く四国までを襲い、九州、四国の住民は北海道と沖縄、アメリカ、オーストラリアへ避難せざるを得なくなった。

この時点で日本の歴史は幕を閉じた。

204x年、中国が日本を購入、自国の原子炉が生成する「核廃棄物」の処理場を日本国内の各所に作った。。。。。

2015年、自民党安倍内閣は、原発の再稼働と集団的自衛権を強硬に推し進め成立させたが、今は集団的自衛権で守るべき「国」は存在しない。。。

戦う相手は「内なる敵」だったのだ。。。

